

## 第6回 群馬県少子化対策推進県民会議の概要

1 日 時 平成24年8月7日(火) 午前10時～11時45分

2 会 場 県庁7階 審議会室

3 出席者 県民会議委員 13名

### 4 会議内容

- (1) 群馬県の少子化の現状と課題について
- (2) ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2010の取組状況について
- (3) 平成24年度少子化対策推進本部の取組について

### 5 主な発言内容

少子化対策の喫緊の課題として、「未婚化・晩婚化への対応」「仕事と生活の調和の推進」をテーマに意見交換を行ったところ、各委員の発言(要旨)は以下のとおりです。

#### ○社会環境の整備について

- ・働きたい人が働き続けられるために、保育園や幼稚園に子どもを預けやすい体制を整えることが大事ではないか。
- ・ワーク・ライフ・バランスを推進し、女性が働き続ける環境を整備することにより、社会の活性化が図られるのではないか。
- ・ワーク・ライフ・バランスがうまく図れるかと考え、結婚を後回しにしてしまう傾向が見られる。仕事と子育てを両立できる環境を整えてあげることが大事ではないか。
- ・女性が過剰な労働やストレスから子どもを授かりにくくなることもあり、労働環境の改善が必要ではないか。

#### ○個人・社会の意識への働きかけについて

- ・不妊治療や高齢出産のリスクから、「出産の適齢期」があることが最近マスコミで取り上げられている。そのことを積極的に情報提供していくべきではないか。
- ・これからの世の中を活性化するために「子孫を残すことの大切さ」や、「子育ては楽しいし、父親も協力して子育てをする」といった、家族形成の原点のところを小さいうちから教えていく必要があるのではないか。
- ・未婚化・晩婚化は、教育にも問題があるのではないか。「結婚はいいものだ」というような教育もしていないと、少子化がますます進んでしまうのではないか。

#### ○行政の関わりについて

- ・少子化の進展により地域の活力が失われていくことを考えると、結婚支援も行政のメインの仕事と捉え積極的に取り組むべき時期にきているのではないか。
- ・少子化は進行しており、今独身の人をどうするかということが大きな課題である。結婚したいと思っている人には、自分たち大人が様々な出会いのきっかけづくりを

サポートしていくことが最大の力となるのではないか。

- ・結婚を望んでいる若者の「出会い」の機会を増やしていくために、もっと行政が前面に出ないといけないのではないか。
- ・「あいふろ」「縁結びネットワーク」など多くの工夫をしていると感じるが、出会いの機会の減少だけでなく、若者の価値観(生き方や人生観)の変化にも目を向けるべきではないか。